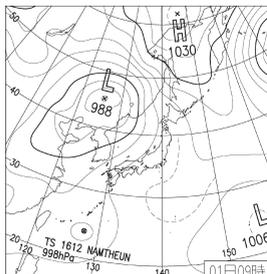


日々の天気図

— No. 176

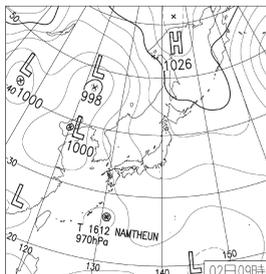
2016年9月

- 6～9日、北海道各地で大雨。土砂災害、浸水被害や河川氾濫も。
- 13日、台風第14号は890 hPaに発達。
- 中旬、西・東日本、記録的日照不足。
- 28、30日、九州で竜巻被害。
- 日本に台風年間6個上陸（8月に第7・11・9・10号、9月に12・16号）は1951年以降2位タイの記録。
（気象庁予報部予報課）



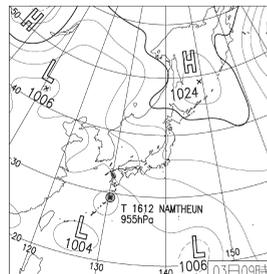
1日(木) 台風第12号が発生

台風は沖縄の南を発達しながら北東進。沖縄と湿った空気が流れ込む九州、北海道太平洋側で曇りや雨、その他は概ね晴れ。真夏日地点数458は6日ぶりの多さ。熊本県で震度4。



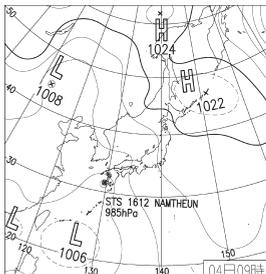
2日(金) 台風、沖縄近海を北上

台風第12号は南大東島の西海上を北上し南大東島で25.8 m/sの最大瞬間風速。沖縄県奥で44.5 mm/1h。九州を除き西～北日本まで概ね晴れ真夏日地点数424と連日400地点超え。



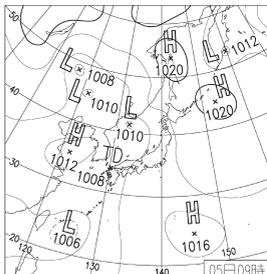
3日(土) 台風、九州に接近

台風第12号が南西諸島北部を北上。鹿児島県中之島で史上1位を大幅更新の129.5 mm/1h。日降水量346.5 mmで9月1位。最大瞬間風速47.6 m/s。東海で猛暑日3地点。



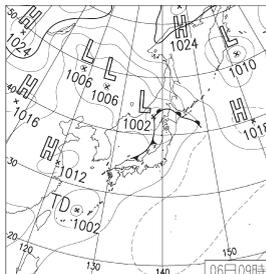
4日(日) 台風、九州の西を北上

台風第12号は九州の西をゆっくり北上。鹿児島県志布志で9月1位の66.5 mm/1h。熊本県湯前横谷で日降水量216.5 mmと九州で大雨。新潟県中条36.3℃など北陸7地点で猛暑日。



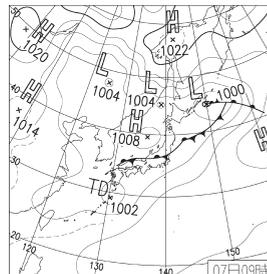
5日(月) 台風第12号 九州上陸

台風は長崎市に上陸後、熱帯低気圧に。湿った空気入り沖縄～西日本や東海で激しい雨や雷。高知県佐喜浜で61.5 mm/1h。北陸や北日本も所々雨。北陸・関東・東北では猛暑日も。



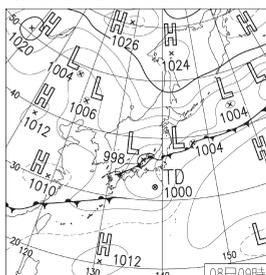
6日(火) 沖縄近海で台風発生

低気圧接近で北海道は局地的な大雨。稚内の日降水量192 mmは1938年観測開始以来1位。台風と湿った空気で沖縄～近畿で局地的に激しい雷雨。各地で残暑厳しく460地点で真夏日。



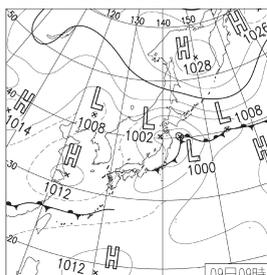
7日(水) 沖縄～関東、局地的大雨

台風は九州の南で熱帯低気圧に。本州には前線停滞し、北日本は寒気の影響で、各地でわか雨。群馬県標名山76 mm/1hは9月1位。所々晴れ京都で猛暑日。熊本県・関東で震度4。



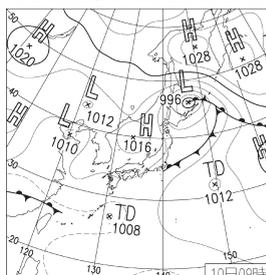
8日(木) 広範囲で激しい雨や雷

低気圧や前線が本州付近を北東進。暖かく湿った空気入り各地大気の状態不安定。西日本～関東や東北太平洋側は局地的な大雨で仙台駅前冠水。兵庫県大屋で史上1位の89.5 mm/1h。



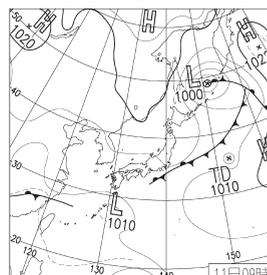
9日(金) 北日本を低気圧北東進

南西諸島に前線停滞。沖縄では雷雨で本部で51 mm/1h。低気圧の影響で北日本太平洋側中心に大雨。北海道知方学49.5 mm/1h。羅臼の日降水量183.5 mmは記録更新。土砂災害も。



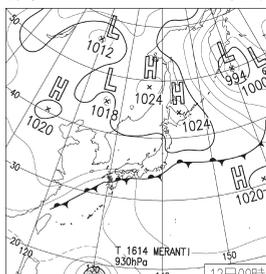
10日(土) 台風第14号発生

先島諸島は前線による激しい雨や雷。沖縄県志多阿原で32 mm/1h。北日本はオホーツク海を低気圧が北上。日本海側中心に曇りや雨。九州～東北太平洋側は高気圧に覆われ概ね晴れ。



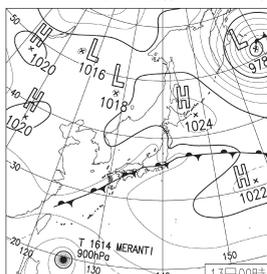
11日(日) 秋雨前線が停滞

華南～東シナ海と本州南岸には前線が停滞。九州南部・奄美や東日本～東北南部は曇りや雨で関東南岸で激しい雨。その他は晴れた所が多く沖縄～東日本の249地点で真夏日に。



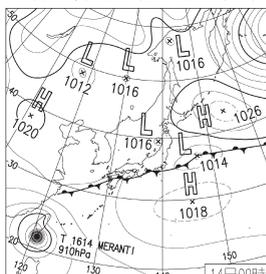
12日(月) 九州中心に激しい雨

前線北上し沖縄～西日本で雨。北海道は高気圧に覆われ晴れ。その他は曇りやわか雨。沖縄県粟国で54 mm/1h。宮崎県北方で日降水量186 mm。西日本各地でススキ開花。



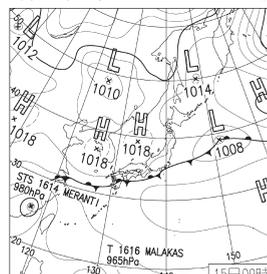
13日(火) 台風第15、16号発生

日本の南岸に前線停滞。沖縄・奄美や北海道オホーツク海側の一部で晴れ間が出たほかは概ね曇りや雨。千葉県横芝光で9月1位の63.5 mm/1hなど東海・関東で非常に激しい雨。



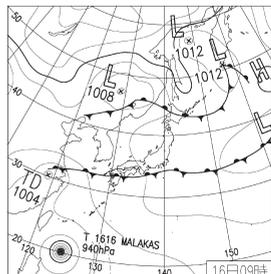
14日(水) 日本の南岸で激しい雨

西～東日本南岸に引き続き前線が停滞。北日本は気圧の谷。全国的に曇りや雨。熊本県多良木で54.5 mm/1hの非常に激しい雨。猛烈な台風第14号はバシー海峡から台湾海峡へ。



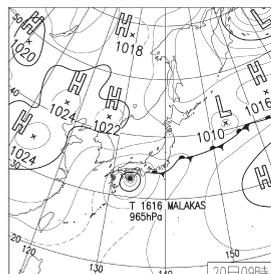
15日(木) 引き続き前線停滞

日本の南岸に前線停滞し西日本～東海・関東は曇りや雨。日本海の高気圧に覆われ北陸～北日本は概ね晴れ。北海道は寒気の影響で局地的に激しい雨。石狩地方山口で42.5 mm/1h。



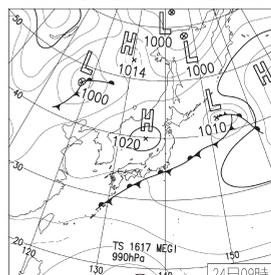
16日(金)南北二段の前線帯

本州南岸に前線停滞、北海道でも前線を伴った低気圧が東進。沖縄～九州・北日本の一部を除き曇りや雨で局地的に激しい雨。非常に強い台風第16号は石垣島の南を北西進。



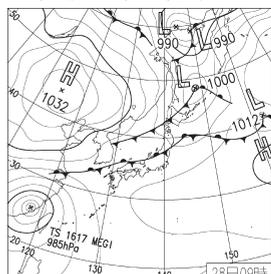
20日(火)強い台風、未明九州上陸

台風は鹿児島県に上陸。枕崎で最大瞬間風速44.5 m/s, 115 mm/1hなど各地で暴風や史上1位の猛烈な雨。午後近畿・東海を経て夜、温帯低気圧に。大分県蒲江で日降水量324 mm。



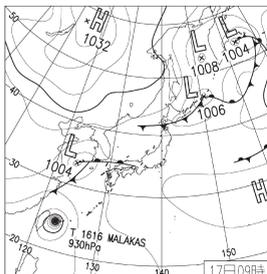
24日(土)本州南岸に前線停滞

南西諸島～本州南岸に前線停滞。西～東日本太平洋側で曇りや雨のほかは高気圧に覆われ概ね晴れ。近畿～関東は雷雨の所も。静岡で46.5 mm/1h。台風第17号発生。



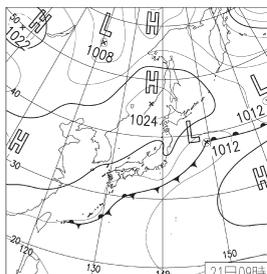
28日(水)九州北部、記録的な大雨

北日本と本州付近の前線の影響で全国的に雨。九州や近畿～北陸は局地的に激しい雷雨。長崎県壱島で史上1位の日降水量401 mm, 九州で竜巻被害。台風第17号は熱帯低気圧に。



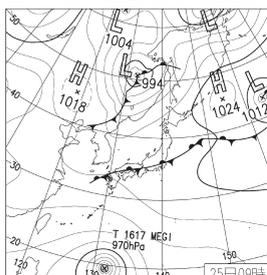
17日(土)台風第16号、先島を北上

非常に強い台風は与那国島付近を北上。沖縄県と那国島で最大瞬間風速66.8 m/s, 所野で日降水量305 mm, 長崎県壱浦で89.5 mm/1hなど史上1位。大分県日田では35.5°Cの猛暑日。



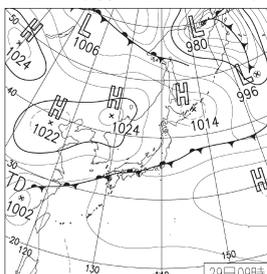
21日(水)高知でスキー開花

平年より30日遅く遅い方から2位の記録。北日本は高気圧に覆われ晴れ。前線は沖縄～日本の南海上に離れたが西～東日本は湿った空気の影響で曇りや雨。沖縄と父島のみ真夏日。



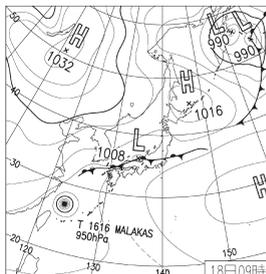
25日(日)四国中心に局地的大雨

本州付近の前線は東日本で一時活動弱まり、東～北日本は晴れたが西日本は曇りや雨。高知県室戸岬で9月1位となる110 mm/1h, 佐喜浜で日降水量220 mm, 沖縄・奄美は所々で雨。



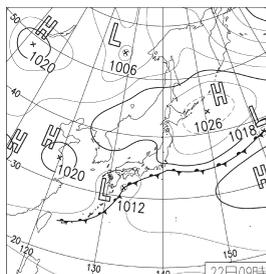
29日(木)北海道旭岳で初冠雪

西～東日本に前線停滞。北日本は寒気を伴う気圧の谷通過。沖縄や九州南部を除き全国的に曇りや雨。高知県魚梁瀬61.5 mm/1hなど九州・四国で非常に激しい雨。台風第18号発生。



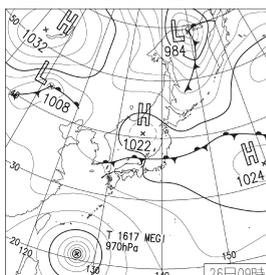
18日(日)台風は進路を北東へ

台風北上に伴い本州付近の前線に暖かく湿った空気入り西日本中心に局地的な非常に激しい雨。和歌山県龍神で9月1位の76 mm/1h。気温上がらず北海道で10月下旬並の所も。



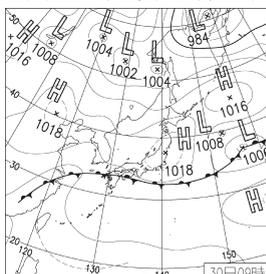
22日(木)前線の活動活発

日本の南の前線上に低気圧が発生。前線活動活発に。北海道を除き雨で。関東や沖縄で非常に激しい雨。千葉県勝浦で58 mm/1h, 日降水量167 mm, 気温上がらず10月下旬並の所も。



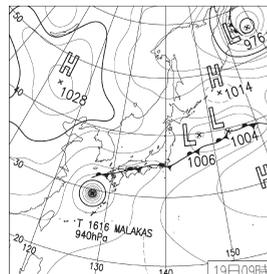
26日(月)西・東日本で日照不足

9月中旬の日照時間平年比が関東甲信で25%など1961年以降最少。前線は西日本でやや北上。北海道や九州～関東の南岸で晴れたほかは曇りや雨。北海道震度4, 鹿児島県5弱。



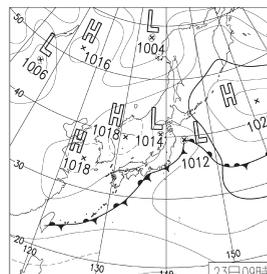
30日(金)西日本に前線停滞

高気圧が日本海から日本の東へ移動。前線は東日本で南海上へ南下。九州北部～東海・関東は曇りや雨。北陸や北日本は晴れ。沖縄～九州南部も晴れて真夏日も。長崎県で竜巻被害。



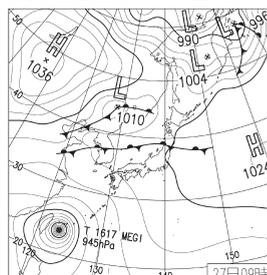
19日(月)台風は九州に接近

台風第16号の接近で九州南部で猛烈な雨と風。宮崎県高鍋で史上1位の110 mm/h, 日向で9月1位の日降水量355 mm, 鹿児島県枕崎で最大風速30.3 m/s, 宮崎県では竜巻被害も。



23日(金)東海～関東、激しい雨

低気圧が三陸沖を北東進。前線が本州南岸～沖縄にのびる。九州以外は前線の影響で曇りや雨。静岡県越木平で54 mm/1hの非常に激しい雨。最高気温は全国的に平年並か低め。



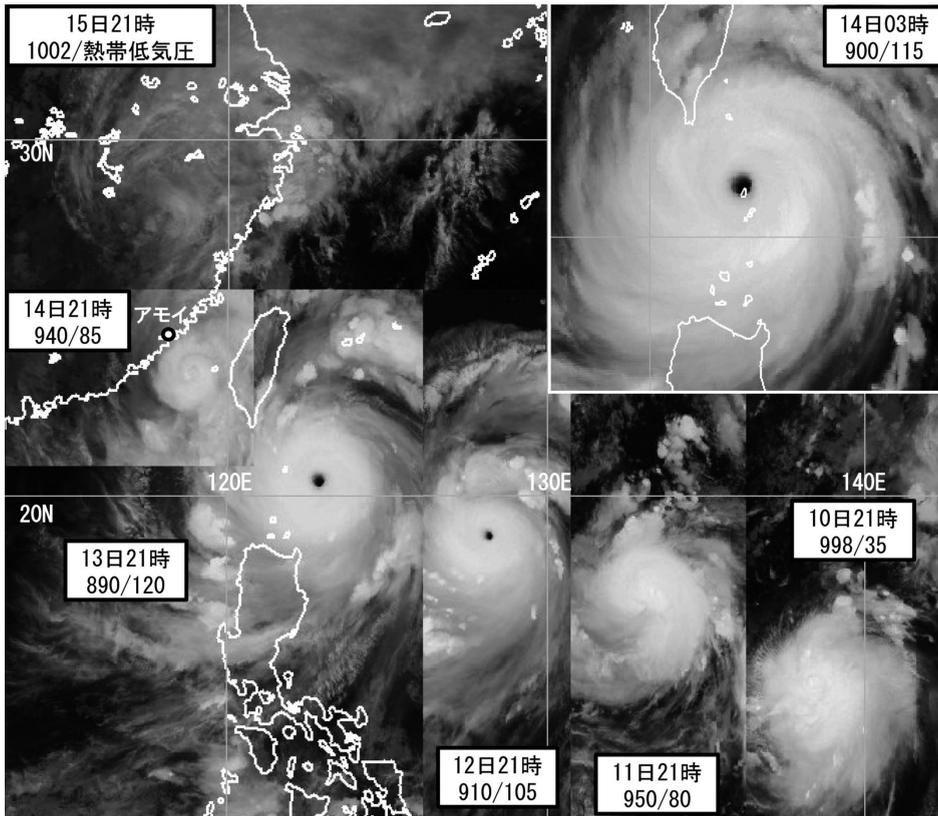
27日(火)台風、先島諸島に接近

沖縄は台風第17号接近で暴風。与那国島で最大風速37.9 m/s, 最大瞬間風速52.8 m/s, 沖縄～四国で局地的な激しい雨。最高気温は平年より高く北日本を除く306地点で真夏日。



今月のひまわり画像—2016年9月

盛衰が激しかった台風第14号



第1図 2016年9月10日21時～15日21時（日本時間）の24時間毎の台風第14号の赤外画像の合成図。日時の下の数字は、左が第14号の中心気圧（hPa）、右が同最大風速（kt）。右上図の台風的眼の中にある島がイトバヤット。

2016年9月10日15時（日本時間）にフィリピンの東で発生した台風第14号は、12日21時にかけて急発達し、13日21時には中心気圧が890 hPa、最大風速120 kt（1 kt=0.51 m/s）にまで強まった（第1図）。フィリピンの東から台湾付近にかけては海面水温30℃以上であったうえに、海洋貯熱量（海洋表層の蓄熱量）が高く、台風が発達しやすい海域であった。

第14号は14日02時に人口約3,000人のイトバヤット島を通過（第1図右上）したが、幸いにも人的被害はなかったようである。フィリピン気象当局の報告によると、イトバヤットでは同時刻に海面気圧933.6 hPa、最大風速北の風50 m/s（10分間平均）を観測したが、通信塔とアンテナが猛烈な風で倒壊したため、この通過報告は完全ではないとのことであった。

その後、第14号は台湾海峡を経て、中国福建省廈門（アモイ）市付近に上陸し、15日21時に熱帯低気圧に変わった。台湾では死者は1名となり、少なくとも100万世帯が停電、72万世帯が断水した（台湾中央災害対策センター）。また、中国の福建省と浙江省では死者28名、行方不明15名が出て、165万世帯が停電した（9月17日新華社通信）。

1951年以降の統計で中心気圧900 hPa未満になった台風は第14号までで36個となる。これらの台風期間（発生～熱帯低気圧化または温帯低気圧化）の平均を計算すると8日7時間となるが、この第14号の台風期間は「5日6時間」と最も短く、盛衰が激しい台風であった。

（気象庁予報部予報課 原 基）